

投資家のみなさまへ

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

「高成長インド・中型株式ファンド／高成長インド・中型株式ファンド（年1回決算型）」
臨時レポートの誤記載について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年5月8日にリリースいたしました臨時レポート「世界最大！インド総選挙アノマリー？」におきまして、下記のとおりインド総選挙の年等に誤記載がありましたので、お詫びして訂正いたします。

なお、弊社HPに掲載のレポートは訂正後のものに差し替えています。

記

インド総選挙の年

(誤) 1984年、1989年、1994年、1999年、2004年、2009年、2014年、2019年

(正) 1984年、1989年、1991年、1996年、1998年、1999年、2004年、2009年、2014年、2019年

(訂正前) P1

(訂正後) P1

「R & Iファンド大賞2023」
(投資信託/インド株式 優秀ファンド賞) 受賞
※詳細は最終ページとご確認ください。

R&I
2023
優秀ファンド賞
RAI Fund Award 2023
販売用資料
2023年5月8日

高成長インド・中型株式ファンド
高成長インド・中型株式ファンド（年1回決算型）

世界最大！インド総選挙アノマリー？

平素は「高成長インド・中型株式ファンド」、「高成長インド・中型株式ファンド（年1回決算型）」(以下、当ファンド)をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
当資料では、インド株式の魅力について、当ファンドの実質的な運用を担当するコクサ・マンドラ・グループ (以下、コクサ)のコメントなどを基にご紹介いたします。

有権者9.7億人*の世界最大の「インド総選挙」とは？ *2023年予想値

□ 5年ごとに実施
インド下院 (543議席) の総選挙は5年ごとに行われ、満18歳以上の有権者数が約9.7億人*にのぼる**世界最大の直接選挙**です。全国規模の大政党の「インド人民党」と「インド国民会議派」、その他多くの地域政党があります。

□ 投票期間は6週間
行政権を持つ28の州と国の直轄地区から構成され、選挙シーズンごとに**電子投票の機械を移動して使用するため、投票期間が長くなります。**

□ 投票はボタンを押すだけ
電子投票機械で支持する候補者名と政党のシンボルマークのある**赤いボタンを押して、投票完了**、投票後、投票者の人差し指にインクを印をつけます。

インドの総選挙のある年は、インド株式はプラス

<インド総選挙年（下院）のインド株式年間騰落率>
(1984年～2019年、5年ごと)

選挙年	騰落率 (平均) : 約32%
84	7%
89	17%
94	17%
99	64%
04	16%
09	83%
14	32%
19	16%

□ 過去40年、選挙のあった年のインド株式の年間騰落率はすべてプラスとなりました。騰落率の平均は約32%でした。

モディ政権

(注1) アノマリーとは、「理論的に説明できない市場の非合理的な現象」。(注2) 2023年の満18歳以上の人口はEuromonitor Internationalの予想値。
(注3) インド株式はS&P500に連動 (相対騰落率＝0)。(注4) Bloomberg、Euromonitor International、各種資料のデータを基に弊社独自作成
※上記は過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等も示唆あるいは保証するものではありません。

三井住友DSアセットマネジメント Be Active. 1/10

「R & Iファンド大賞2023」
(投資信託/インド株式 優秀ファンド賞) 受賞
※詳細は最終ページとご確認ください。

R&I
2023
優秀ファンド賞
RAI Fund Award 2023
販売用資料
2023年5月8日

高成長インド・中型株式ファンド
高成長インド・中型株式ファンド（年1回決算型）

世界最大！インド総選挙アノマリー？

平素は「高成長インド・中型株式ファンド」、「高成長インド・中型株式ファンド（年1回決算型）」(以下、当ファンド)をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
当資料では、インド株式の魅力について、当ファンドの実質的な運用を担当するコクサ・マンドラ・グループ (以下、コクサ)のコメントなどを基にご紹介いたします。

有権者9.7億人*の世界最大の「インド総選挙」とは？ *2023年予想値

□ 5年ごとに実施
インド下院 (543議席) の総選挙は**原則5年ごと**に行われ、18歳以上の有権者数が約9.7億人*にのぼる**世界最大の直接選挙**です。全国規模の大政党の「インド人民党」と「インド国民会議派」、その他多くの地域政党があります。

□ 投票期間は6週間
行政権を持つ28の州と国の直轄地区から構成され、選挙シーズンごとに**電子投票の機械を移動して使用するため、投票期間が長くなります。**

□ 投票はボタンを押すだけ
電子投票機械で支持する候補者名と政党のシンボルマークのある**赤いボタンを押して、投票完了**、投票後、投票者の人差し指にインクを印をつけます。

総選挙のある年のインド株式のパフォーマンスは？

<インド総選挙年（下院）のインド株式年間騰落率>
(1984年～2019年、原則5年ごと*)

選挙年	騰落率
84	7%
89	17%
91	82%
96	-16%
98	16%
99	64%
04	16%
09	83%
14	32%
19	16%

□ 過去40年、選挙のあった年のインド株式の年間騰落率は上昇した割合が多くなりました。
*1991年、1996年、1998年は原則5年ごとの選挙年に該当せず。

モディ政権

(注1) 2023年の満18歳以上の人口はEuromonitor Internationalの予想値。
(注2) インド株式はS&P500に連動 (相対騰落率＝0)。(注3) Bloomberg、Euromonitor International、各種資料のデータを基に弊社独自作成
※上記は過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等も示唆あるいは保証するものではありません。

三井住友DSアセットマネジメント Be Active. 1/10

販売用資料

今回の総選挙は2024年、モディ政権継続か？

<グジャラート州議会選挙結果>

2017年: BJP 99議席 (54%), 46%
 2022年: BJP 156議席 (86%), 44%

□ 2022年12月のインド西部グジャラート州の議会選挙で、モディ首相率いる与党・インド人民院 (BJP) が事前の予想を上回る勝利を収めました。

□ 定数182のグジャラート州議会選挙でBJPは156議席を獲得し、17年の前回選挙で獲得した99議席を大幅に上回りました。地元メディアは事前にBJPの優勢を伝えていましたが、予想を超える地滑り的勝利となりました。

<世論調査によるモディ首相の満足度 (%)>
 2020年～2023年 (1月、8月)

68 → 78 → 74 → 54 → 63 → 66 → 72

□ インド有力紙「インディア・トゥデイ」の世論調査では、モディ首相に対する満足度は高い水準で推移しており、政権の継続 (3期目) 見通しが強まっています。

2023年、2024年とインド株式の上昇に期待

□ 過去のデータを見る限り、インドの株式市場は1984年以降の選挙の年のパフォーマンスはすべてプラスでした。またインド総選挙の前年、1999年、2008年を除き上昇しており、選挙の前年や選挙年には上昇する傾向があります。

□ これは、次期政権が押し進めるであろう政策や経済改革、投資環境の改善への期待感や、選挙の結果が判明したのちに、政治的な不確実性が後退することなどが主な理由として考えられます。

□ インドは急速に成長する経済大国であり、世界の投資家にとって魅力的な市場となっています。このため、株式市場に投資資金が流入し、市場が拡大していることも株価上昇の要因として考えられます。

□ 2023年は選挙の前年、2024年は選挙の年であり、アムラーーの上ではインド株式市場の上昇が期待されます。

(出所) 各種報道等に基づき委託会社作成
 ※ 上記は過去の実績および本資料作成時点の見通しであり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等も示唆あるいは保証するものではありません。見直しは予告なく変更する場合があります。

※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。 **三井住友DSアセットマネジメント Be Active. 2/10**

販売用資料

今回の総選挙は2024年、モディ政権継続か？

<グジャラート州議会選挙結果>

2017年: BJP 99議席 (54%), 46%
 2022年: BJP 156議席 (86%), 44%

□ 2022年12月のインド西部グジャラート州の議会選挙で、モディ首相率いる与党・インド人民院 (BJP) が事前の予想を上回る勝利を収めました。

□ 定数182のグジャラート州議会選挙でBJPは156議席を獲得し、17年の前回選挙で獲得した99議席を大幅に上回りました。地元メディアは事前にBJPの優勢を伝えていましたが、予想を超える地滑り的勝利となりました。

<世論調査によるモディ首相の満足度 (%)>
 2020年～2023年 (1月、8月)

68 → 78 → 74 → 54 → 63 → 66 → 72

□ インド有力紙「インディア・トゥデイ」の世論調査では、モディ首相に対する満足度は高い水準で推移しており、政権の継続 (3期目) 見通しが強まっています。

2023年、2024年とインド株式の上昇に期待

□ 過去のデータを見る限り、インドの株式市場は1984年以降の選挙の年のパフォーマンスは1996年、1998年を除き、プラスでした。またインド総選挙の前年、1995年、2008年を除き上昇しており、選挙の前年や選挙年には上昇する傾向が多くなりました。

□ これは、次期政権が押し進めるであろう政策や経済改革、投資環境の改善への期待感や、選挙の結果が判明したのちに、政治的な不確実性が後退することなどが主な理由として考えられます。

□ インドは急速に成長する経済大国であり、世界の投資家にとって魅力的な市場となっています。このため、株式市場に投資資金が流入し、市場が拡大していることも株価上昇の要因として考えられます。

□ 2023年は選挙の前年、2024年は選挙の年であり、アムラーーの上ではインド株式市場の上昇が期待されます。

(注) インド総選挙は、1999年、1999年と連続で行われたため、1999年の前年と見比べると1998年はインド総選挙の前年から除外しています。
 ※ 上記は過去の実績および本資料作成時点の見通しであり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等も示唆あるいは保証するものではありません。見直しは予告なく変更する場合があります。

※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。 **三井住友DSアセットマネジメント Be Active. 2/10**

ご不明な点は下記にお問い合わせください。

コールセンター : 0120-88-2976
 受付時間 : 営業日の午前9時～午後5時